令和２年６月１日
６月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想…… 1
岡崎市消防本部
消防長　井藤　謙三 氏
この人に聞く…… 2
食品スーパー　代表取締役CEO
大山　皓生 氏
羅針盤 …… 2
男川小学校　校長　本間　茂夫
ふれあい…… 3
北中学校　教諭　白形　奈穂
特　集…… 4
働き方改革と教育の質の向上を両輪に
お知らせ…… 6
フォト・ヒストリー… 8
伊賀川清掃奉仕活動の様子
（昭和 57 年）
この本を…… 8

教育随想

災害に負けないための防災教育

岡崎市消防本部
消防長　**井藤　謙三　氏**

執筆現在、新型コロナウイルス感染症の蔓延を防ぐために、緊急事態宣言が発令され、児童生徒のみなさん、教職員、保護者の皆様など、多くの方々が突然の対応に本当に苦慮されていると思います。このような新しい感染症の世界的流行は、もはや未曽有の災害として、地域や市、県を超えて国家レベルで対応しなければなりません。

今までの防災教育の主眼となる災害は、都市機能をすべて奪うような地震や風水害などの自然災害でした。災害に対する備えとして、初期消火訓練、避難訓練、ＡＥＤを含めた心肺蘇生法、炊き出し訓練などを実施してきました。しかし、今後は、避難所での感染防止対策、新型感染症の蔓延を防止する個人の心構えや行動、そして、少し大袈裟かもしれませんがテロ災害についても、防災教育の一環として実施していく必要があると考えます。

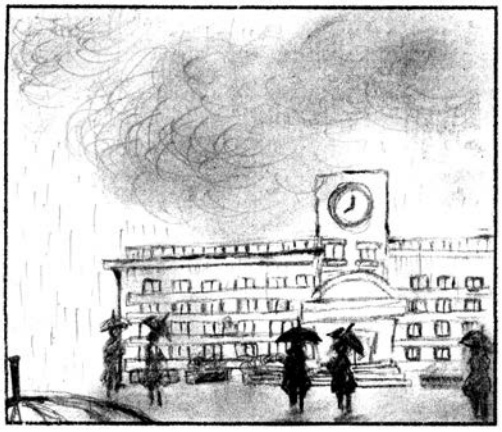
学校や地域で行われる防災訓練は、防災教育の一翼を担っています。災害時の究極の目標は「自分の命は自分で守り、余裕のある者は他者を助ける」ということに尽きると思います。昨今、防災訓練などで言われている「自助・共助」と同じであり、訓練の際には、常にこの意識をもって臨んでいくべきであると考えます。

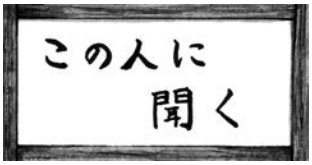
また、防災教育を通じて、個人として災害に備える場合、南海トラフ地震の発生が危惧されている現在ではありますが、これからは新型感染症を含めたあらゆる災害に対して、発災時、発災直後、数時間後、数日後、数か月後等を想定して行う必要があります。

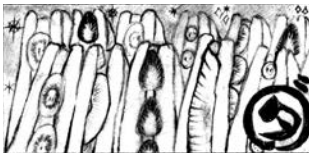
誰かが助けてくれるだろうという考えはもたず、まずは自分の命は自分で守り、次に助けを求めている人に手を差し伸べる必要があります。我々は普段から一人で生きているのではなく、知らず知らずに、家族を含め周りの人々の協力・支援を得て生きていることを認識しなければなりません。

あらゆる災害を想定した防災教育を行うことで、今のうちから災害に負けない強い防災力を身に付け、常に備えることが重要だと考えます。

（いとう　けんぞう）







仕事とは、喜んでもらうこと

食品スーパー　代表取締役CEO
大山　皓生 氏

先代の会長である祖父から「店を継ぐことを考えてほしい」と言われ、スーパーで働き始める。それまで、食品スーパーに関する知識は全くなかった。社長に就任した際に、二つのことを一年以内に達成すると宣言をした。①店の売り上げを倍にする。②一〇〇人以上の行列ができる店にする。これらを実現させるために、様々なアイデアを考え出した。その結果、フルーツを贅沢に使ったかき氷とフルーツサンドが大ヒットした。

― 仕事をするうえで大切にしていることは何ですか ―

お客様に喜んでもらうことです。この仕事は、お客様に喜ばれた量が対価として返ってきます。そこで、どのようにしたら喜んでもらえるのだろうかと考えました。お金をかけずに喜ばせることは何だろうと考えたときに、まずはお客様の名前を覚えることから始めようと思いました。今では、一、〇〇〇人以上のお客様の名前を覚えています。

― 二つの宣言を実現するために取り組んだことは何ですか ―

行列を作って、売り上げを倍にするために、大手の食品スーパーにはない何かで日本一になろうと考え、かき氷を思いつきました。

最初に野菜を使用したかき氷を作りましたが、一杯も売れませんでした。次に試行錯誤しながら考案したメロンを丸ごと使ったかき氷は、地元で少しずつ売れるようになりました。三週間ほど経ったある日、ある方がSNSに掲載してくれました。すると、それがきっかけとなり、次の土曜日には、一〇〇人の行列ができていました。

しかし、かき氷は秋冬には売れません。この行列を一年中作り続けるために、何ができるか考えました。静岡の八百屋でフルーツサンドが売られていると知り、見様見真似で作り始めました。二週間で商品として売り出すと、かき氷と同様にSNSで評判が広まり、一年半が経って、平日でも一〇〇人ぐらいの行列ができるようになりました。売り上げは、一年で約二・五倍。二年経って、四倍ぐらいになりました。

― チームを導くリーダーとして大切なことは何だとお考えですか ―

良いメンバーがそろっていても、リーダーに魅力がないとチームとして成り立ちません。リーダーが魅力的な人間でなければ、スタッフもお客様もついてこないのです。

では、魅力とは何かというと、「また」がつく数だと思います。また聞きたくなる、また会いたくなるなど、「また」がたくさんつく人ほど魅力ある人間と言えると思います。

― 岡崎の子供たちに向けて、メッセージをお願いします ―

何でもいいので、夢中になれるものや一生懸命に取り組めるものを見つけてほしいと思います。私自身、学生の頃に、学級代表や生徒会役員として、自分が所属する組織を盛り上げてきました。そのときの頑張りがあったので、社会人になったときに、自分に自信がもてました。そして、その一生懸命に取り組めるものが、人に喜んでもらえるものであれば、さらにすばらしいと思います。

氏名　おおやま　こうき
生年月日　平成五年十月三十日
住所　岡崎市宇頭町

予測不能な未来に向けて

男川小学校
校長　**本間　茂夫**

二〇二〇年は、Society 5.0 が目指す「超スマート社会」の実現に向けて、日本全体が大きく動き出す節目であると言われる。学校教育においても、新学習指導要領下で、情報活用能力や言語能力、問題解決能力がすべての学習の基盤として位置付けられ、新しい学びが始まる転換期を迎えている。

岡崎市では、未来に生きる子供たちに、世界に通用する論理的思考力を育むため、いち早く小学校全学年で「岡崎市プログラミング学習」に取り組んできた。同時に、GIGAスクール構想が始動し、「一人一台」の学習用端末が整備される。それにより、個別最適化学習を含めた子供たちの「学びの深化」と「学びの転換」を図り、予測不能の未来を見据えた新たな教育への道筋が示された。

待つこと　認めること

北中学校
教諭　白形　奈穂

快活な人柄で、何でも真面目に頑張るAは、剣道部の一年生の中でも早くから頭角を現していた。

剣道部には、十二月に一年生の初心者だけが参加できる大会がある。その頃、練習試合でも順調に勝ちを重ねていたAは、優勝を目標に掲げて大会に臨んだ。ところが、結果は一回戦敗退。それ以降、Aは練習試合でも、以前のようには勝てなくなった。相手に距離を詰められ、後ろに退いてしまう。ここで踏ん張り、挫折を乗り越えることができれば、Aは大きく成長する。そう考えた私は、練習試合で思うような試合ができず、泣いているAに、

「逃げてはだめだ。ここを乗り越えればもっと強くなれる。」

とあえて厳しい言葉をかけた。Aはうつむいたまま、今にも消え入りそうな声で「はい」と返事をした。

三学期になってAは、担任の先生に、

「部活動に行きたくない。」

と相談した。Aに話を聞くと、

「十二月の大会で負けて以来、自分の剣道ができなくなり、部活動が楽しくなくなった。」

ということだった。Aの苦しい胸の内を聞いた私は、このまま無理に部活動を続けさせるのではなく、A自身がまた剣道をしたいと思えるときを待とうと決めた。そして、

「今は剣道から離れて、考える時間をもとう。あなたが剣道にもう一度向き合えるときがくるのを待っているよ。」

と伝えた。そしてAが戻ってきたとき、Aの居場所がなくならないよう、他の部員たちにも、

「温かく見守ってほしい。」

と話をした。

年度が変わる頃になると、周囲の温かい励ましもあり、Aは再び部活動に戻ってきた。しかし、Aが剣道に向かう姿に覇気はなかった。そんなAの姿を見て、私は、自信をなくしたAにとって必要なのは、厳しい言葉ではなく、自分を認めてくれる言葉ではないかと考えた。私は、Aとの関わりをこれまでと変えた。練習の中で意識的に褒めるようにした。

「今の打ち、いいぞ。」

と声をかけたり、全体指導の場で、Aに手本を示させたりした。そうすると、Aはうれしそうな表情で練習を続けた。練習試合のときも、

「前より小手打ちが上手になっているよ。」

と良かった点を伝えるようにした。そうしているうちに、以前のような勢いのあるAの打ちが、少しずつ見られるようになってきた。

二年生の夏の大会前、Aは、

「竹千代杯で負けた子に勝ちたい。」

と言った。あのとき負けて剣道を諦めかけていたAが、再び自分より強い相手に立ち向かおうとしていた。結局、その選手と試合をすることはなかったが、Aは相手が誰であろうと恐れず、積極的に飛び込んでいった。勝てないかもしれない相手に決して臆することなく、弱い自分を乗り越え、自分の剣道にどこまでも挑んでいくAの姿がそこにはあった。

三年生の夏。引退を迎えたAは、

「あのときやめずに最後まで頑張ってよかった。」

と後輩たちへ言葉を残した。Aの表情には輝きがあふれていた。

しかし、たった一つの未知のウイルスの出現で状況は一変した。まさに予測不能ということを思い知らされた。新型コロナウイルスの感染拡大は、三か月にも及ぶ休校という未曽有の状況をもたらした。学校が最上にすべきことは、「子供の命を守る」ことだ。その上で「子供の学びを守る」。そのためには、まず私たちが、自らの情報活用能力や、問題解決能力をフル活用して「命を守る」ための手だてを洗い出す。その上で学校生活の中で実現できるものを条件別に整理し、施設面からできること、教師が行うこと、子供たちが実行することを可視化するなどの手だてを講じなければならない。そして、子供たちが楽しく分かる授業。「問題を洗い出す」「分けて考える」「手順を考える」「改善する」などの論理的思考を駆使して、言葉を発しなくても考えを深め合える授業。そのような主体的・対話的で深い学びを実現する授業を、ＩＣＴ環境をフル活用して創り出してくことこそが、私たちの責任ではないだろうか。

予測不能の未来に向かって、子供たちの命を預かる私たち一人一人が、大きな使命を自覚して、新型コロナウイルスによる厳しい状況を乗り越えていきたい。

働き方改革と教育の質の向上を両輪に

～　目の前の子供たちのために　未来の子供たちために　～

昨年十二月に教員給与特別措置法が改定され、教職員の超過勤務時間について、一か月に四十五時間以内、一年間に三六〇時間以内という指針が示された。

岡崎市教育委員会では、平成二十九年度に特別委員会として「教職員の働き方研究委員会」を設置し、調査・研究を重ねながら、教職員の働き方、業務の見直しなどに取り組んでいる。

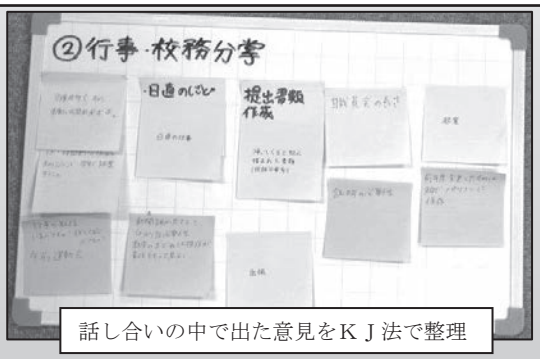
市内の小中学校においても、「働き方改革」が進み、各校で、さまざまな業務改善を図っている。その効果的な取り組みについては、「教職員の働き方研究委員会」がまとめたものを参考に、各学校において情報を共有している。

学校として、業務改善の取り組みを進めることは重要であるが、同時に、教職員一人一人が生み出された時間を活用し、力量向上に努めることも大切である。今、目の前にいる子供たちはもちろんのこと、未来の子供たちにも思いを巡らせて、教育の質を向上させる「働き方改革」の在り方を考えていきたい。

＜働き方を主体的に考える取り組み＞

『竜谷小働き方改革プロジェクト』
（竜谷小学校）

『竜谷小働き方改革プロジェクト』では、ワークショップ形式で話し合いの場をもち、教室掲示や宿題、部活動、データの共有化や蓄積など、効率的、効果的に教育活動が推進できるよう検討している。出てきた意見をＫＪ法で整理し、これまでの働き方を見直し、変えていこうという意識を全職員で高めている。



話し合いの中で出た意見をＫＪ法で整理

『一歩進める働き方改革』（教頭会研修）

岡崎市教頭会では、株式会社キャッチネットワークの松永光司様倉地陽一様を講師としてお招きし、民間の先進的な取り組みについて研修の場をもった。教育の量から質への転換を意識して、今後も各学校で取り組んでいる働き方改革を一歩進めていく。

「働き方改革」を進める意義

教員の心や体の健康を保つためです。子供たちと笑顔で元気よく学校生活を送るためにも、自分たちが健康であることが大切です。また学ぶ時間を確保するためでもあります。人を育てる仕事をしている教員は、常に自分自身を磨くことを忘れたくありません。そのために、研修に積極的に参加したり、本を読んだり、さまざまな職種の人と出会ったりして学んだことは、子供たちに還元されます。

働き方改革は、教員の意識改革から

働き方に対する意識を変えていくことが大切です。これまで当たり前に取り組んできた教員の働き方を、様々な視点から見直し、改善を図っていくことで、主体的な取り組みに変わっていきます。そして、教員全体の意識改革が進めば、教職の魅力がもっと輝いて見えるようになります。そうすれば、魅力的な人材がもっともっと集まり、よりよい教育にもつながっていきます。

各校における業務改善の取り組み例

【ＩＣＴの活用に関して】

＜小学校＞

○Google フォームを利用して、学校評価アンケートを実施した。

＜中学校＞

○週案をデータ化して、朱書きの時間の短縮と授業時数の確実な把握を図った。

【日課に関して】

○日課の改変、部活動の時間の短縮などにより、下校時刻を早めた。子供のゆとりを生むとともに、教材研究や研修の時間に充てた。（小・中）

【行事に関して】

○懇談会を希望制として、長期休み中に実施した。（小・中）

＜小学校＞

○運動会の予行演習を学年ごとに行うことで授業時間を確保した。

○運動会や学芸会の演技内容や練習時間を見直した。

＜中学校＞

○伝統的行事の見直しや簡略化を図った。

○体育大会の学級別入場行進・応援合戦の方法を見直した。

【会議に関して】

＜小学校＞

○職員会議の回数を減らした。

○朝礼をなくし、教室で子供たちと触れ合う時間を増やした。

＜中学校＞

○部活動指導にあたる教員を調整し、学年会の時間を作った

【部活動に関して】

＜小学校＞

○部活動数を適正化して、各部に顧問を最低４人配置し、指導日を分担した。

○平日は月・木を休みにし、秋の大会以降は週３日の活動とした。

＜中学校＞

○複数顧問とし顧問休養日を設置した。

○教員の業務、子供の健康面を考慮し期末テスト最終日は部活動をなくした。

【その他の取り組み】

○高速印刷プリンタを導入し、仕事の能率化を図った。（小・中）

＜小学校＞

○「働き方改革」について話し合う場や研修の場を設けた。

○理想的な働き方についてのモデル案を示した。

○学校文集の作成方法について見直しを図った。

○宿題の点検は、朝の時間を活用し、子供に直接声をかけながら行った。

＜中学校＞

○週案の反省記録を簡略化し、他の業務に取り組む時間を確保した。

○学年通信発行を週１回から月１回とし、その時間を教材研究等の時間に充てた。

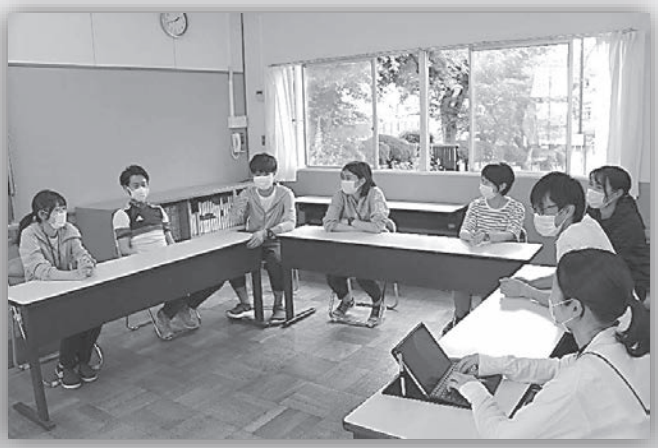
○中間テストのテスト期間を１週間とし、子供も教員もゆとりをもって取り組むことができるようにした。

＜生み出した時間を効果的に活用する取り組み

『さくら塾』（広幡小学校）

『さくら塾』では、実際の授業ですぐに役立つ内容、今後必要とされる内容を取り上げ、研修会を開いている。授業で簡単に使える英語のフレーズ、オンライン学習、ＩＣＴを活用した授業など、教師の力量向上を目指している。

『ＤＪ部』（大樹寺小学校）



『ＤＪ部』として、若手を中心とした自主研修会を開催している。学級や授業のことなどについて情報交換を図る場面や、得意分野を生かした研修会を行っている。そうした取り組みにより、互いに切磋琢磨する雰囲気を作り上げている。

●令和二年度校長会役員

〈小中学校長会役員〉

会長　和田　実（南中）
副会長　本間　茂夫（男川小）
　永野　光雄（矢作中）
　清水　範彦（小豆坂小）
会計監査　小川真奈美（山中小）
　北村　文啓（額田中）
庶務　小田　昌男（岡崎小）
　伊豫田　守（竜海中）
庶務補佐　小島　寛史（岩津小）
　大西　和夫（矢作北中）
会計　倉地　耕治（豊富小）
　中野渡善樹（城北中）
会計補佐　小田　哲也（羽根小）
　梅田　康典（形埜小）
評議員　酒井　洋一（連尺小）
　片桐　徹（藤川小）
　高鍬　利行（城南小）
　赤崎　類子（奥殿小）
　小田喜代美（三島小）
　近藤久美子（常磐小）
　鈴木　誠（六ツ美中部小）
　吉田　章二（竜美丘小）
　大西　裕子（美合小）
　名倉　嘉章（新香山中）
　中垣　明道（六ツ美中）
　野田　豊（美川中）
　荻須　文裕（葵中）
　溝口　了実（岩津中）
　石川　敏幸（常磐中）

〈小学校長会〉

会長　本間　茂夫（男川小）
副会長　清水　範彦（小豆坂小）
　小川真奈美（山中小）
会計監査　梅田　康典（形埜小）
庶務　小田　昌男（岡崎小）
会計　倉地　耕治（豊富小）
会計補佐　伊澤　勉（福岡小）

〈中学校長会〉

会長　永野　光雄（矢作中）
副会長　北村　文啓（額田中）
　名倉　嘉章（新香山中）
会計監査　中垣　明道（六ツ美中）
庶務　大西　和夫（矢作北中）
会計　石川　敏幸（常磐中）
会計補佐　平　任代（竜南中）

〈専門委員会・委員長〉

法制　児玉　洋行（翔南中）
教育条件　大西　和夫（矢作北中）
学校経営　小田　哲也（羽根小）
　進路　荻須　文裕（葵中）
　保体　今枝　武司（東海中）
　福安　小田喜代美（三島小）
　給食　溝口　了実（岩津中）
　生徒指導　柴田　和美（北中）
　特別支援　酒井　洋一（連尺小）
　広報　牧野　守（井田小）

●本年度の特別委員会

本年度は以下の十八の特別委員会を置き、岡崎市の教育活動の充実・発展を図る。

・「岡崎教育史要Ⅶ」編集委員会
　長　伊豫田　守（竜海中）
　副　片桐　徹（藤川小）
・月報「岡崎の教育」編集委員会
　長　清松　治子（矢作東小）
　副　手島　英樹（下山小）
・教員の研修に関する委員会
「教員研修必携編集」
　長　倉地　耕治（豊富小）
・教員の研修に関する委員会
「新任教師の集い企画・運営」
　長　岩瀬　竜弥（六ツ美南部小）
・教職員の働き方検討委員会
「学校教育活動検討」
　長　小田　昌男（岡崎小）
・教職員の働き方検討委員会
「働き方検討」
　長　荒河　昌吾（大樹寺小）
・教職員の働き方検討委員会
「教職員調査」
　長　稲垣　祐嗣（矢作南小）
・ＩＣＴ教育推進委員会
　長　小田　哲也（羽根小）
　副　森　竜師（竜谷小）
・郷土読本編集委員会
　長　山内　貴弘（福岡中）
　副　石原　真吾（大門小）
・授業改善委員会
「個別最適化教育研究」
　長　牧野　守（井田小）
・授業改善委員会
「中学校年間指導計画作成」
　長　近藤　善紀（常磐東小）
・授業改善委員会
「中学校通知表作成」
　長　熊谷　清一（本宿小）
・授業改善委員会
「補助教材検討」
　長　竹平　真仁（矢作北小）
・英語が話せるおかざきっ子研究委員会
「小学校英語評価研究」
　長　石川　敏幸（常磐中）
・英語が話せるおかざきっ子研究委員会
「ＧＣＴカリキュラム改定」
　長　柵木　智幸（甲山中）

・学校評価委員会
長　山本　則夫（六ツ美西部小）
・科学の心を育てる委員会
長　近藤　浩之（河合中）
・教員免許更新特別委員会
長　長坂　博子（生平小）

●本年度の研究発表校

本年度の研究発表校は、市委嘱の発表校が三校、自主発表が一校である。

○市委嘱研究発表校

・緑丘小学校（全教科）
「主体的に学び続ける子供の育成
―「まちガエル」「かんガエル」「ふりカエル」で「みちガエル」―」
十月二十一日㈬

・細川小学校（全教科）
「学びに向かう力を育む授業の創造」
～「みんなで学ぶ・みんなが伸びるチーム学習」を通して～
十月二十八日㈬

・額田中学校（全教科）
「自ら学び続け、未来を切り拓くことができる生徒の育成
―ＣＲＳで「学びに向かう力」を引き出す授業づくり―」
十一月十一日㈬

※本年度は以下のように実施する予定
一、研究概要の発表（紙上発表）
二、授業公開（初任者研修としての授業公開・各学校代表一名）

○自主研究発表

・竜海中学校
「わかる学習指導　第12次研究（2年次）
自ら学び続ける生徒の育成
―「読む」「書く」の充実を図り、「わかる」の実感を強める学習指導を中心に―」
十一月十三日㈮

※紙上発表の予定

・愛知教育大学附属岡崎中学校
九月二十九日㈫

・愛知教育大学附属特別支援学校
十一月六日㈮

・愛知教育大学附属岡崎小学校
十一月十九日㈭～二十日㈮

※実施方法について検討中

常磐東小
常磐小
恵田小
岩津小
大樹寺小
矢作東小
六ツ美北部小
竜海中
河合中
矢作中

●表　彰

◆日本赤十字社　社長表彰

○社長感謝状
羽根小
六名小
連尺小
愛宕小
竜谷小
秦梨小
常磐南小

●教職員の相談窓口

岡崎市教育委員会では、教職員のさまざまな悩みや不安を和らげたり、解消したりするとともに、職務の円滑な遂行を支援するための相談窓口を設置している。これからも校外、校内におけるさまざまな関係機関との連携を図りながら、教職員の相談体制の充実を図っていく。

教職員の相談窓口

【対象】全教職員　【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと　等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日　12:00 ～ 19:00 土曜日　12:00 ～ 16:30
2	岡崎市こころホットライン	0564-64-7830	平日　13:00 ～ 20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日　9:00 ～ 17:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休　9:00 ～ 16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休　24 時間

伊賀川清掃奉仕活動の様子
（昭和57年）

写真提供：葵中学校

写真は、全生徒が鎌を手に、伊賀川堤の清掃奉仕作業に取り組む様子である。伊賀川は、佐々木今朝吉氏によって植えられた桜並木で知られている。

本校は、開校当時より、生徒会を中心に堤の草刈りに取り組んでいる。当初は、堆肥増産が目的であったが、時代とともに川の景観の美しさを守る伝統行事となった。今では、彼岸花などの球根を植え、季節ごとの彩りを華やかに添えている。

学区と力を合わせ、河川美化に取り組む学校や団体は多い。美しい川と流域の緑を守ることは、地域を愛する心も育んでいる。

・カット　新香山中　杉浦貴恵

この本を

＊「遊ぶ」が勝ち　　**為末　大**
中公新書　　¥820

心に残った一文

「努力」よりも「夢中」が勝るのだ。

大人になればなるほど、「遊び」に対して否定的な思いを抱く。ただ、遊びと真面目は対極ではない。筆者は世界の舞台で戦った陸上選手。アスリートの華やかな競技生活の中にもスランプや悩む時期が必ずある。そこで行き着いた境地が、プレッシャーから視点をずらすという術だ。それは、例えれば、「遊び」という自由で自発的な感覚にいちばん近いと語る。

ふと、自分を振り返る。手が届きそうな頂を前に経験不足と無力さを痛感したあのシーン。日本の頂点となったチームの指導者は、こんな言葉を私に残した。

……「最後は遊び心だよ」。

＊ケーキの切れない非行少年たち　　**宮口幸治**
新潮社　　¥792

＊ぼくを探しに　　**シルヴァスタイン**
講談社　　¥1,650

＊ONETEAMのスクラム　　**松瀬　学**
光文社　　¥1,210

福岡中学校　**山内　貴弘**

ホッと

本当に大切なことは何か。「働き方改革」は、教職員だけでなく、目の前の子供たちと未来の子供たちのために取り組むものである。

教職員の意識改革のもと、従来のあり方にとらわれない大胆な発想と柔軟な工夫が必要である。教育の質をあげるために、これからも前を向いていきたい。

頭角を現していたAが初めて味わった挫折。その挫折から立ち上がるのはA自身であるが、その原動力となるのは周りにいる者たちのかける言葉にある。

折れかかった子供の心を支え、励ますのは、子供をどこまでも信じて待ち、肯定的な言葉をかけ続ける教師の熱い思いにほかならない。

水無月

「作り手」と自らを称し、多くの人に喜んでもらいたいと考える大山氏。その思いを大切にし、経営者として従業員を率い、お客様と接する。

魅力あるリーダーのもとで組織は育つと、大山氏は言う。これからも子供たちの笑顔があふれる学校になるよう、私たち自身が魅力あふれる教師でありたい。

▲ホタルとアジサイ